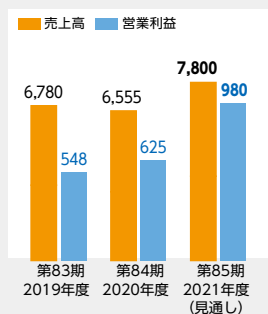


	実績	前年同期比
売上高	3,694 億円	+22.6%
営業利益	457 億円	+85.0%
売上高営業利益率	12.4%	+4.2P
税引前四半期純利益	462 億円	+75.7%
当社株主に帰属する 四半期純利益	325 億円	+69.5%
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 四半期純利益	161.22 円	+66.06円

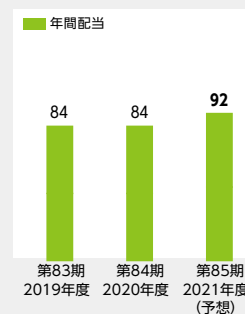
第85期(2021年度) 通期の見通し(連結)

	前期比
売上高	7,800 億円 +19.0%
営業利益	980 億円 +56.9%
売上高営業利益率	12.6% +3.0P
税引前当期純利益	940 億円 +44.4%
当社株主に帰属する 当期純利益	655 億円 +51.2%
基本的1株当たり 当社株主に帰属する 当期純利益	324.58 円 +109.86円

売上高および営業利益(億円)



配当(円)



(注1) 第83期の売上高、営業利益は、非継続事業(2019年10月に譲渡した車載事業)を除いています。

(注2) 上記は、2021年10月28日決算発表時点です。入手可能な情報に基づき将来の業績に関する見通しです。

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主 確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 および特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵送先) (電話照会先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 0120-232-711 (9:00~17:00 土曜・日曜・祝日を除く)
上場証券取引所	東証第一部
証券コード	6645

株式に関するお問い合わせ

- 配当金の受領方法・振込先の変更
 - 届出住所・姓名などの変更
 - 単元未満株式の買取・買増請求
- 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。
- 特別口座に関する照会
 - 郵送物の発送と返戻に関する照会
 - 支払期間経過後の配当金に関する照会
 - その他株式事務に関する一般的な照会
- 三菱UFJ信託銀行(上記)までお問い合わせください。

「配当金領収証」で配当金をお受け取りの株主さまへ
「銀行口座・証券口座での受取」をお勧めします。

口座での受け取りに変更すると...

- 手間なく、すぐに、受け取れます。
支払開始日にご指定の口座に自動的に振り込まれます。
- 安心確実です。
「配当金領収証」の紛失や、受け取り忘れの心配がありません。
- NISA口座では、
「証券口座での受取」にすると配当も非課税になります。

詳細は、口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

株主の皆さまには、平素より
格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。
ここに、第85期
株主通信 2021年冬号を
お届けいたします。



2021年度上期の当社グループの業績は、大幅な増収増益を達成しました。コロナ禍における活動制限の長期化や部材不足などの影響を受ける中でも、制御機器、電子部品、ヘルスケアの各事業が拡大する需要を捉え、売上高3,694億円(前年同期比22.6%増)、営業利益457億円(同85.0%増)、営業利益率12.4%(前年同期差4.2P増)となりました。営業利益は、額・率ともに過去最高となります。私たちが稼ぐ力を表す指標として最もこだわっている売上総利益率(GP率)は、部材・物流費の高騰による影響を受ける中でも過去最高を更新し、46.2%となりました。コロナ禍においても利益成長力を高めることができました。

下期も好調な事業環境が継続すると見込み、通期見通しを上方修正しました。新たな通期見通しは、売上高7,800億円、GP率46.3%、営業利益980億円です。GP率と営業利益は過去最高、売上高も2019年度に譲渡した車載事業を除くと過去最高となります。一方、部材不足や部材・物流費の高騰による影響は継続すると認識しており、生産能力を増強すると同時に部材確保や売価の適正化などの対策を進めています。下期は製品供給力のさらなる強化に取り組みながら、将来を見据えた成長投資も手を緩めることなく実行していきます。

配当については、中間配当を前年から4円増配の46円とし、年間配当予想を前年から8円増配の92円に引き上げました。また、配当の増額だけでなく、新たに300億円を上限とする自己株式取得枠を設定しました。今後も資本効率を重視した経営を継続し、株主価値を高めてまいります。

オムロンはこれからも世の中の変化から生じる成長機会を的確に捉え、事業を通じて社会的課題の解決に挑戦し続けることで、持続的な企業価値向上を実現してまいります。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

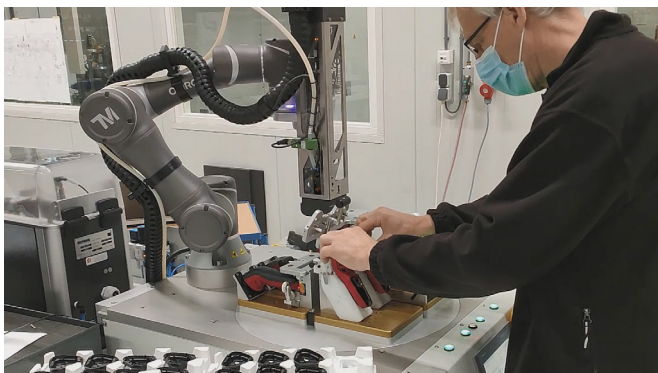
2021年12月
代表取締役社長 CEO **山田 義仁**

◆台湾「テックマン・ロボット社」との提携を強化 ～人と機械が協調するロボット技術で人手不足を解決～



近年、製造業の人手不足は社会的課題となっています。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人が密接して働くことが新たなリスクとして浮上しました。こうした中、これまで人が行っていた作業のさらなる自動化が求められています。そこで期待されるのが人と協調して働くロボットです。協調ロボットは、安全柵がなくても人とロボットが隣り合わせで安心して働くことができ、柔軟に複数の作業に対応できるという特長があります。1つの生産ラインで、人と機械がそれぞれ得意な分野を担当し協調することで、生産性や品質を向上することが可能になります。

オムロンは、この分野で世界第2位のテックマン・ロボット社(以下、テックマン社)と2018年に戦略的提携を行い、同社の協調ロボットをグローバルに販売してきました。さらに2021年10月、テックマン社への出資に合意し、これまでの提携関係を強化します。オムロンの各種ファクトリーオートメーション機器とテックマン社の協調ロボットをすり合わせた革新的なロボットソリューションを共同で開発することで、人と機械の協調を加速し、製造現場における人手不足の解決につなげます。



協調ロボットと人が共同で組立作業を行う様子

「ゼロイベント」の実現に向けた新たなチャレンジ ～遠隔診療サービスをグローバルに展開～



オムロンは、「脳卒中や心不全などの脳・心血管疾患の発症ゼロ(ゼロイベント)」を循環器疾患事業のビジョンに掲げ、その実現を目指しています。脳・心血管疾患の発症を未然に防ぐには、その主要因である高血圧の早期発見と早期治療により、血圧を適正にコントロールする必要があります。オムロンは家庭用血圧計の1号機を1973年に発売し、2021年に累計販売台数がグローバルで3億台を突破しました。また、いつでもどこでも血圧測定ができる腕時計タイプのウェアラブル血圧計や、血圧測定と同時に家庭で心電図を記録できる心電計付き上腕式血圧計を北米で発売するなど、今までにない革新的な商品を世の中に送り出しています。

さらに商品の開発に留まらず、高血圧の診断・治療をサポートするプログラムの開発、遠隔診療などの医療サービスの創出に取り組んでいます。患者が家庭で計測した血圧などの生体データが医療従事者とタイムリーに共有され、個人に合わせた診察・治療につながるサービスです。これにより、適切な投薬プランを提案するサービスや、自宅で医師・医療スタッフに相談したり診察を受けられる環境づくりを進めています。

遠隔診療サービスは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、グローバルで加速しています。オムロンは、2020年9月に北米で最も名高い病院のひとつであるニューヨークのマウントサイナイ病院で、患者の生体データを医師とタイムリーに共有し、患者の状

態に合わせて治療を行うことができる慢性疾患向けの遠隔患者モニタリングサービスを開始しました。国民の2人に1人が高血圧を発症する米国では、高血圧症患者の血圧の遠隔管理が高齢者向け公的医療保険の対象となっています。現在は複数の病院にサービスを提供し、利用者も広がっています。また、2021年4月からは英国でも新たなサービスを開始しました。このサービスは、家庭で測定した血圧データを医師と共有し、患者の治療状態に応じて3か月分の投薬プランを医師に提案するものです。医師はこれらの情報を参考にして遠隔で薬の処方が行えるため、業務が効率化でき、患者は通院の負担が軽減します。

オムロンでは、北米・英国に加え、シンガポール、インドですでに遠隔診療サービスの提供を開始しており、現在、日本、オランダ、ブラジルでも事業化に向けた準備を進めています。国ごとに異なる医療制度やしくみに合わせて、最良のビジネスパートナーと協力し、サービスを拡大していきます。

今後も、遠隔診療サービスを普及させることで、グローバルの共通課題である医療費の高騰抑止、医療従事者の業務負担軽減、患者の通院負担軽減などに取り組み、「ゼロイベント」を実現していきます。

当サービスの詳細は統合レポート2021でも紹介しています。URLまたはQRコードからご覧ください。
https://www.omron.com/jp/ja/integrated_report/

